

「我が家の防災計画」

山梨県 北杜市立甲陵中学校 2年 河西 晃希

僕の家の裏には八人山があります。夏休み中は僕の部屋の窓から山のすそ野に広がる緑色のぶどうの葉がこすれ合い涼しい風を運んでくれます。考え事をしている時や集中して勉強しようとする前には必ず、八人山を眺めるのが習慣です。心が安らぎ、ストレスも取り去ってくれる八人山は僕にとって大切な場所です。

僕の父は甲府市消防団甲運分団第3団に所属して団長を務めています。近所で火事が起こった時は夜中でもすぐにかけて行きます。最近では、高齢者の方が家を出たきり行方不明になり、3日間も捜索したこともありました。その時父は、僕に「山はこわいぞ。少し奥に入り込むと、自分がどこにいるのか全く分からなくなってしまうからね。ここの地域はごろごろした石が多いから足元に気をつけないと足を踏み外してしまうよ。」と言い、僕は「山はおそろしいな。」と思いました。

その間に、父が部屋から、防災ハザードマップを持ってきて見せてくれました。甲府盆地は笛吹川や釜無川をはじめとして、多くの河川が流れていて水害が発生しやすい自然条件下にあることが分かりました。また、2004年10月には台風23号によって大雨となりました。甲府市善光寺町で土砂崩れが発生し、床上浸水57棟もしてしまったことを知りました。僕は家の近くでこのような土砂災害が起きていたことは全然知りませんでした。いつも折々の四季を楽しませてくれている山が、大きな岩や鉄砲水と共に自分の家に押し寄せてきたら本当におそろしいと思いました。もしもそうなったらどうしようと思い、不安になりました。僕はまず、どこへ逃げればいいのかと頭をめぐらしました。

我が家の場合、北側が山なので、そこから土砂が押し寄せてくるのだから、南側へ逃げるのではなく、東西のどちらかに逃げるのが良策だと思いました。でも、起きてから逃げるのは難しいことだと思いました。むしろ、絶対に無理だということに気がつきました。

だから、土砂災害が起きる前に、危険を察知して避難することが大切だと思いました。ハザードマップのパンフレットで調べたところ、山鳴りがしたり、腐った土の臭いがしたり、井戸や沢の水が濁るなど、普段と違ったことが起きると、土砂災害が起きる前兆なのだと分かりました。幸いハザードマップには家の周りは土砂災害警戒区域ではありませんでした。でも僕は、東日本大震災では想定外の高さの津波がきたり、5年前には広島県で大規模な土砂災害が起こり、たくさんの人達がなくなってしまったことを思うと、この地域も災害が起こる可能性はゼロではないので、災害に備えなければいけないと思いました。僕は、もし日中家族が離れている時に災害が起こってしまったら大変なので、非常時の避難場所や連絡方法を普段から話し合っておこうと思いました。

両親や兄は携帯電話を持っているので、携帯の災害用伝言板を利用すれば良いと思いました。僕は公衆電話を毎日利用するので近くに公衆電話があれば利用しようと思いました。災害時には多少かかりやすい優先電話になっているそうで、伝言ダイヤル171という電話の音声伝言板サービスなどいろいろな連絡方法があることが分かりました。

また、家族で避難場所をどこにするか話し合っ、我が家から近い避難所が2ヶ所あるので近かった東公民館に決めました。家族で話をするうちに、非常持ち出し品の準備をしておこうということになりました。僕はまず、「水、食料、タオル、懐中電灯。」と言うと、兄が「着替えとラジオ、ライター、薬。」と、みんなで必要な物を書き出していきました。家にあったリュックサックに詰め込んでみることにしました。トイレトペーパーやペットボトルの水など結構がさばったり、重たかったりして、意外と荷物が多くなってしまふことが分かりました。3袋にまとめて、玄関のげた箱の棚に置くことに決めました。

以前、テレビで防災の番組をしていて食べ物は「ローリングストック」をするのをすすめていました。古い物から使い、使った分だけ購入していくやり方です。これを我が家でも実践することになりました。

## 令和元年度 「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文中学生の部 優秀賞（事務次官賞）

今回、土砂災害について考えてみて、減災についてよく分かりました。けれども、学んだ防災の知識はあくまで知識であり、実戦できなければ意味が無いと思います。もちろん知識があるのとなしいのでは雲泥の差があります。しかし、使えなければ知識は無いも同然となってしまいます。だから、どんな時でも冷静に判断して行動できるようになりたいです。